

実践報告

## 絵本の音楽会『すてきな三にんぐみ』

### 4歳児・5歳児を対象とした作品づくり

疇地 希美

佐久間 真理

嶋田 ひろみ

山本 八千代

吉村 雅美

#### 要旨

日本の文化背景の中で、幼い子ども達がワルツ、3拍子の舞曲、に親しむ機会は少ない。そこでクラシック音楽をもっと子どもたちに聴いてもらいたい、ワルツ（3拍子の舞曲）を子どもたちに楽しんでもらいたいという願いのもと、絵本『すてきな三にんぐみ』と「ワルツ王」と呼ばれるヨハン・シュトラウスの管弦楽曲を組み合わせ、4歳児・5歳児を対象とした鑑賞作品づくりを行った。

作品づくりでは、絵本にクラシック音楽が加わることにより子ども達のストーリーへの没入感を高める効果をねらった。また、絵と文章だけでは表現しきれない登場人物の心情や、物語の背景を楽器の音で表現することにより、より立体的な上演作品となった。絵本の最初と最後にオープニング曲とエンディング曲を加えることで、劇場で作品を鑑賞するような演出効果も実現した。

この研究を通し、子どもが絵本の物語を楽しむことを重視した作品づくりには（1）絵本に対する深い理解、（2）音楽の専門的な知識、（3）子どもの発達への理解が必要であることが明らかになった。また、子どもに関わる大人が絵本の物語を深く理解することの重要性や、保育者養成課程・

教員養成課程の授業などで行われている絵本による音楽づくりの活動の持つ意義も確認された。

キーワード：絵本、クラシック音楽、ワルツ、4・5歳児、音楽鑑賞

## 1. はじめに

日本で育つ子どもたちが3拍子の音楽に親しむ機会は少ない。子ども向けの楽曲に3拍子のものは少なく、幼児歌曲として作曲されるもののおよそ9割は4/4拍子や2/4拍子などの2分割系の拍節による<sup>1</sup> (Azechi, 2016)。また、クラシック音楽も意識して積極的に鑑賞しなければ、触れることがなく過ぎて行ってしまう。そこで筆者らは3拍子のクラシック音楽の代表とも言えるワルツを絵本『すてきな三にんぐみ』（トミー＝アンゲラー、1969、偕成社）と組み合わせ、4歳児・5歳児を対象とした鑑賞プログラムを作成し、幼稚園での音楽会にて上演した。

クラシック音楽分野では絵本と音楽を合わせた作品への取り組みは、以前から行われてきた（疇地ら、2018）。親子を対象とした音楽会の上演プログラムに絵本を用いることも様々なアーティストにより数多く行われ、筆者らによる音楽集団「みらい堂」も多くのプログラム作品を制作・上演してきた（疇地ら、2019）。しかし、多くの場合において演奏会における絵本を用いたプログラム制作方法や制作に必要な見識が明示されることはない。また、保育者や教員養成課程の音楽や表現に関する授業や（小島、2007、2009；下出、1995、1996；松永、1992）、かつては小学校音楽科の授業においても、絵本に音楽をつける活動が行われてきた（三輪、2013）。しかし、こうした活動において、モデルとなるような演奏が示されることはなかった。

そこでこの論文では、筆者ら音楽を専門とする者による4・5歳を対象

とした絵本とクラシック音楽のモデルとなる鑑賞作品づくりを行い、その制作過程から明らかになった結果を示す。

## 2. 研究目的

本研究の目的は以下の2点である。

1. 4歳児・5歳児を対象とした、絵本とワルツを含むクラシック音楽を組み合わせた鑑賞作品の制作をこの研究の目的とする。保育者養成課程の音楽表現や、教員養成過程の音楽科における活動でのモデルとなるような作品制作を行う。本論においては、制作した作品を楽譜の形で研究結果として示す。

2. 作品の制作過程を振り返り、子どもが絵本の物語を楽しむことを重視した作品づくりに必要な見識を明らかにする。

## 3. 作品づくりと演出について

近年、音楽家・演奏家が考えた親子向けの演奏会プログラムにも絵本を用いた演目が散見される。しかし、中には音楽が単なるバックグラウンドミュージックとなってしまうケースや、音楽の演奏に主軸をおいたために子どもたちが絵本の世界に没入することができないケースもあり、改善の余地が見られる。そこで筆者らは、子ども向けの演奏活動をするにあたり、子どもが登場人物になりきって物語に入り込めることを主軸にし、絵本が持つ世界観をより際立たせる選曲と、物語の場面や登場人物の心情を表現するような作品づくりと演奏を心がけてきた。また演奏会後のアンケートや演奏の振り返り等からその方法論とモデルタイプの確立を目指してきた(疇地ら、2018; 2019; 2021)。

今回の作品づくりでは、鑑賞活動のねらいを「3拍子のワルツを楽しむ」

とし、絵本を選択した。『すてきな三にんぐみ』は筆者らのこれまでの活動で明らかとなった「ストーリー型」のモデルタイプの条件の一つである「物語の展開がはっきりとしているもの」にあたる（疇地、2021）。作品づくりにおいてはこれまでと同様に『すてきな三にんぐみ』の物語に寄り添うよう、楽曲を場面ごとに選択し、編曲や音楽づくりを行った。その際、「ストーリー型」のモデルタイプを意識し、「絵本と音楽（のバランス）を両立」させること、「物語の展開をはっきり」とさせる音楽を用いること、「楽器の見せ場を作る」ことを今回の作品づくりにおいても重視した。

また演出については、次の3点を心がけた。

使用する効果音と音楽では、現実的な描写を避ける。

『すてきな三にんぐみ』は、どろぼうの話だが、日常性はうすく、空想のお話である。よって効果音には現実味を帯びた音を使わず、作為的な音で楽しませる工夫をした。

絵本を平面的でなく立体感をもったものにする。

文章（ことば）が少なく、絵も明瞭な絵本であることから、音楽を付けることが絵本のそれぞれのページを補足説明していくことになる。観ている側が、登場人物が絵本から飛び出して動き出すように感じる、あるいは、絵本の人物と同じ空間を共有していると感じることを目指した。

オペラ的な楽曲構成にする。

管弦楽曲の使用により、序曲で幕を開け終曲で幕を降ろすオペラを観ているように感じる作品づくりの実現を目指した。プロフェッショナルの打楽器奏者が演奏に参加したため、これまでより多くの打楽器を使用することが可能となった。これにより奏者が増え、使用楽曲をより原曲の管弦楽曲の雰囲気近づけた。

#### 4. 使用絵本 『すてきな三にんぐみ』 について

『すてきな三にんぐみ』（トミー＝アンゲラー<sup>2</sup>、いまえよしと訳、偕成社、1969年出版、1999年改訂版）はトミー＝アンゲラーの絵本の代表作である。青い背景に黒い帽子に黒マント姿の三人の人物と赤い大まさがりが印象的な表紙の作品は、長年子どもたちに読み続けられており、大型絵本やミニサイズの愛蔵版も出版されている。

作者のトミー＝アンゲラー（1931-2019）は国際アンデルセン賞画家賞を1998年に受賞している絵本作家であり、イラストレーターであり、その他いろいろな肩書きを持つ人物である。アンゲラー自身は自分の職業を聞かれたときには「I make books」と答えると述べている（Joseph, 1998）。

『すてきな三にんぐみ』は複数の絵本作家やイラストレーターからおすすめの、あるいは印象的な絵本として紹介されている（クリエイターおすすめの絵本 650冊：絵本作家+イラストレーター+デザイナー 130人、2015）。この絵本の印象的なイラストだけでなく、その物語が持つメッセージ性に惹かれる人も多い。アンゲラーの作品の主人公の多くはアウトローで嫌われ者になりそうなキャラクター設定であるが、みんなに受け入れられ、ハッピーエンドになる物語が多い。アンゲラーが絵本作品で取り組んだ主題は主人公の両義性であり、それは彼の生い立ちに起因するものである（今田、2009）。アルザス地方で過ごした幼年時代にナチスドイツの占領下でフランス語の使用を禁じられ、その後フランス領となってからは母語であるアルザス語の使用を禁じられる体験をしたことから、「多少苦かろうが、絵本は子どもたちに人生を教えるべき」と語り、嫌われ者にも挽回のチャンスがあり、異質な存在だからと排除するべきではないという思想に至った（Pen、2019）。『すてきな三にんぐみ』の主人公も盗賊であり、アウトローで嫌われ者であるが、ティファニーちゃんの登場により、行動が変化する。

辛い境遇にあった孤児たちがお城で楽しく一緒に生きて行くハッピーエンディングな物語である。

また作曲家くりもとようこはこの絵本をもとにして、音楽劇「すてきな三にんぐみ」を制作しており、2007年に初演されている（公益財団法人サントリー芸術財団、2008、p.58）。この作品を鑑賞した人物のブログによると、演奏は声の出演5名（語り、どろぼうA、どろぼうB、どろぼうC、ティファニー）、ピアノ&パーカッション、パーカッション、ヴァイオリン、クラリネット、トランペット、チェロの編成であった（Digitalians' Alchemy 2009年04月12日：ファミリーコンサート「すてきな三にんぐみ」、[http://dalchemy.xyz/blog/article/17480631\\_0.htm](http://dalchemy.xyz/blog/article/17480631_0.htm)、2021/6/30閲覧）。しかし、この作品の音源や楽譜は公開されていないため、参考にはできなかった。

## 5. 使用楽曲について

この作品づくりは、4歳児・5歳児を対象とした、絵本とワルツを含むクラシック音楽を組み合わせた鑑賞作品の制作を目的として行った研究活動である。そのため、ワルツを演奏するのにふさわしい場面のある絵本として『すてきな三にんぐみ』を選んだ。この絵本には、お城で楽しく暮らす場面があり、そのお城のイラストから、ヨーロッパの国が連想され、ワルツを組み合わせるのにふさわしいと判断した。また、主人公のどろぼうが3人組であることから、3拍子であるワルツを連想することもこの絵本を選択した理由の一つである。

『すてきな三にんぐみ』は冒頭から半分以上のページが青と黒を基調とした暗い色彩のイラストであり、また登場人物もどろぼうや孤児などダークなイメージである。そこで音楽は逆に、明るくて楽しい楽曲、時にはコミカルな雰囲気を持つクラシック音楽であるワルツ、ポルカ、マーチを選

曲した。これらの音楽的特徴は次のようなものである。

ワルツ：優雅な3拍子の円舞曲。3拍が均等でなく、1拍目の勢いに乗って2拍目をやや早めに奏して躍動感のある1小節を作る「ウィンナ・ワルツ」の様式をシュトラウス2世が完成させた。

ポルカ：ワルツとともに舞曲のリズムとして重要とされている。軽快なテンポ、弾むステップ、♪のリズムが特徴的である。シュトラウス2世は120曲以上ものポルカを書いた。

マーチ：元は軍隊の行進のために作られた2拍子系(2/4拍子・2/2拍子・6/8拍子)の楽曲である。国によって設定テンポが若干異なり、アメリカは速め、ドイツは遅めである。

(海老ら、2002)

## 6. 各場面の使用楽曲と演出の工夫

使用楽曲はすべてヨハン・シュトラウス親子の作品による管弦楽用の作品である(表1)。シュトラウス親子は共にオーストリアの作曲家、指揮者、ヴァイオリン奏者である。父の1世は序奏と数個のワルツと結尾からなるウィンナ・ワルツの原型を確立し、「ワルツの父」と呼ばれ、150曲をこえるワルツ、16曲の行進曲など、250曲以上の作品がある。その長男のヨハン・シュトラウス2世は「ワルツ王」と呼ばれ、《美しく青きドナウ》をはじめとするワルツ170曲、《トリッチ・トラッチ・ポルカ》などのポルカ120曲を始め多くの作品を作った。またオペレッタでも《こうもり》《ジプシー男爵》など、ワルツ主体の音楽からなる16作品を残している(音楽之友社、1982)。

今回の作品には主にヨハン・シュトラウス2世(1825-1899)の作品を

表 1：場面ごとの使用楽曲

場面	使用楽曲	調性、拍子、テンポ、その他
オープニング	《美しく青きドナウ》Op.314 より第 1-30 小節	イ長調、6/8 拍子、Andantino
三にんぐみ登場	なし	朗読に合わせた打楽器による効果音
獲物を求めて山から降りる	《皇帝円舞曲》Op.437 より第 1-18 小節	ハ長調、2/2 拍子、Tempo di Martia
強盗の場面	《トリッチ・トラッチ・ポルカ》Op.214 より抜粋	イ長調 ホ長調、2/4 拍子、♩=138
宝を隠れ家へ運ぶ	《エジプト行進曲》Op.335 第 5-20 小節より抜粋	ホ短調、2/2 拍子、♩ =60
ティファニーちゃん登場	《アンネン・ポルカ》Op.117 より冒頭部分	二長調・二短調、4/4 拍子、♩=88
金銀財宝を見つける	なし	朗読に合わせた打楽器による効果音
こどもたちを集めみんなで暮らす	《ラデツキー行進曲》Op.228 より	二長調、2/2 拍子、Vivo (ヨハン・シュトラウス 1 世作)
エンディング	《美しく青きドナウ》Op.314 より	二長調、3/4 拍子、Tempo di Valse

使用したが、《ラデツキー行進曲》のみ父であるヨハン・シュトラウス 1 世 (1804-1849) の作品である。

作品づくりにあたり、楽譜はパブリックドメインのものを使用した。主にピアノスコアを用い、打楽器等についてはオーケストラスコアも参考にした。以下、各場面の使用楽曲と演出・編曲について述べる。

オープニングとエンディングに《美しく青きドナウ》Op.314 を使用した。この曲はドナウ川を題材にした円舞曲のひとつで、ゆったりとした序奏から始まり、ワルツへと続く。序奏・5つのワルツ・コーダという構成でできている。今回作品のオープニングでは序奏と第1ワルツ(第1-30小節)を使用した。序奏(イ長調、6/8拍子)はゆったりとしたテンポで、今回の演出ではチェロが主題テーマを担当した(本稿の5楽譜《美しく青



きドナウ》冒頭参照)。

3人組の登場場面(絵本 p.2-5)では、朗読に合わせフレクサトーン、トイホーン、シェイカー、大太鼓等の打楽器を用い、イラストの情報を補足するような音作りを行った。この場面では言葉による登場人物の描写が明確にされていたため、あえて楽曲は用いなかった。

3人組が獲物を求めて山からおりる場面(同 p.6-7)では《皇帝円舞曲》Op.437の行進曲の序奏部分(第1-18小節)を使用した。この場面は暗い色調で描かれた泥棒の登場場面であるため、怖さを打ち消すためにあえて長調の行進曲を選んだ。

同じ理由で、次の3人組による強盗場面(同 p.8-15)では《トリッチ・トラッチ・ポルカ》Op.214を選曲した。トリッチトラッチとは「ぺちゃくちゃ」、「うわさ話」という意味で、原曲は速いテンポの2拍子の明るい調子の曲である(保柳,1996)。この絵本の強盗場面に用いられる武器は、ラッパじゅう、こしょう・ふきつけ等、決して被害者を深刻な被害に遭わせるようなものではない。今回の演奏では強盗場面をコミカルに演出するため、原曲の持つ雰囲気を活かし、編曲は楽器編成のみの変更にとどめた(本稿5楽譜参照)。打楽器による効果音で武器を描写し、チェロにより馬のいななきを表現した。

3人組が宝を隠れ家へ運ぶ場面(同 p.16-17)では、使用した曲の中で唯一、原曲が短調の曲である《エジプト行進曲》Op.335を使用した。この曲はスエズ運河開通を記念して1871年に作られた、異国趣味的な要素を取り入れた行進曲である。今回の作品では隠れ家の雰囲気を出すために遅めのテンポで演奏した(アクロス福岡 HP 歴史を彩った名曲たち #21 スエズ運河と帝国主義 ヨハン・シュトラウス2世/エジプト行進曲、<https://www.acros.or.jp/magazine/music21.html>、2021年7月17日)。

3人組が集めた金銀財宝を見つめる場面(同 p.18-19)では、金属製の打楽器を多数使用し、効果音を作り上げた。「金」「銀」「宝石」などにそ

それぞれ楽器を決め、単なる効果音ではなく、朗読とタイミングを合わせ、楽器の音による表現に時間をたっぷりを使い、ad-lib と表記し、即興演奏のような音楽づくりを行った。

ティファニーちゃんが登場する場面（同 p.20-25）では《アンネン・ポルカ》Op.117 の冒頭部分を使用した。原曲は、ゆるやかな"フランス風ポルカ"と呼ばれているものである。非常に優雅な曲想で、今日も広く愛好されているが、作曲当時も大変な人気があった（平林、2009）。今回使用したのは、第1主題の8小節間であるが、ティファニーちゃんが登場する場面（p.20-21）、眠っているティファニーちゃんが運ばれる場面（p.22-23）、ふかふかのベッドで眠る場面（p.24-25）でそれぞれ違うアレンジにした（楽譜参照）。アレンジのうち二つはグロッケンを用いた。原曲は明るい二長調の曲であるが、3人組の一人がティファニーちゃんを運ぶ場面のみ短調に編曲し、ピアノでの演奏とした。最後のアレンジはグロッケンとピアノでの演奏である。

子どもたちを集めみんなで暮らす場面（p.26-35）では《ラデツキー行進曲》Op.228 を使用した。この曲はウイーンフィルのニューイヤーコンサートの演目として有名な行進曲である。絵本では、この場面から絵の色調が大きく変化し、お城の場面からは緑の背景に赤いマントと帽子をまとった子どもたちが大勢描かれている。子どもたちがたくさん集まる場面をポジティブに表現するため、華やかなスネアソロから始まるこの曲を選択した。

エンディング（p.36-37）には再び《美しく青きドナウ》Op.314 から二長調の最後のワルツとコーダ部分を編曲して使用した。この部分ではそれまで朗読を行っていた演奏者1もタンブリンを持ち、演奏者4名による合奏で華々しく締めくくるようにした。このワルツの主題であるメロディを印象付けるため、エンディング部分ではコーダに入る前に、主題のワルツの部分をリピートするよう編曲した。

## 7. 演奏者と使用楽器

この作品の上演には4名の演奏家が複数の楽器を担当する。以下に各奏者が担当する使用楽器を記す。

演奏者1：朗読 (Vocal、マイク使用)、タンブリン (Tambourine)

演奏者2：チェロ (Cello)、ウインドチャイム (Wind Chime)、鈴 (Ring Bells)、シェイカー (Shaker)

演奏者3：スネアドラム (Snare Drum)、バスドラム (Bass Drum)、サスペンドシンバル (Suspended Cymbal)、フレクサトーン (Flexatone)、シェイカー (Shaker)、トイホーン (Toy Horn)、フィンガーシンバル (Finger Cymbal)、グロッケン (Glockenspiel)、トライアングル (Triangle)、スプリングドラム (Spring Drum)

演奏者4：ピアノ (Piano)

この作品は筆者らによる音楽集団「みらい堂」による演奏を前提として制作された。そのため、演奏者1は声楽家、演奏者2はチェリスト、演奏者3は打楽器奏者、演奏者4ピアニストを想定している。また、新型コロナウイルス感染症流行下における上演を想定し、吹奏楽器の使用や歌うことを避けて作品づくりを行った。

作品の上演において、打楽器は幼稚園にあるものを使用することも可能であるが、子ども用楽器は大人が演奏で用いるものとは異なることもあり、調整を要するものもあるため、注意が必要である。

## 8. 楽譜

### 8.1. 記譜上のルール

記譜に際し、これまでに制作した乳幼児向け作品と同じルールを用いた(疇地ら, 2018; 疇地ら, 2019; 疇地ら, 2021)。そのルールを以下に示す。

- (1) 通常の楽譜と同じように左から右へ音楽が進み、同時に進行するパートは譜表線等でつないで表示する。
- (2) 楽譜上のページ数は、偕成社により出版された絵本に「みらい堂」で便宜的に付したものである。物語の本編が始まる見開きページの右側を1ページ目とした。

### 8.2. 楽譜《すてきな三にんぐみ》

#### 楽譜《すてきな三にんぐみ》

表紙 オープニング《美しく青きドナウ》

みらい堂編

The musical score is for the piece 'Beautiful Blue Danube' (美しく青きドナウ). It is marked 'Andantino' and is in 3/8 time. The score is arranged for Cello & W. Chimney, Piano, and Viola. The key signature has two sharps (F# and C#). The score is divided into two systems. The first system shows the Cello & W. Chimney part with a melodic line and a dynamic marking of *p*, and the Piano part with a rhythmic accompaniment and a dynamic marking of *pp*. The second system shows the Viola part with a melodic line and a dynamic marking of *pp*, and the Piano part with a rhythmic accompaniment and a dynamic marking of *sva*. The score is written for a single page.

絵本の音楽会 『すてきな三にんぐみ』

12

Vc.

Pno

*f*

*pp*

*sva*

18

Vc.

Pno

*sva*

p.1 中表紙

24 Vocal: すてきな三にんぐみ、トミー＝アンゲラーさく、いまえよともやく

Allegretto

25

Pno

*p*

29

Pno

*ff* *rall.*

曙地 希美・佐久間真理・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村 雅美

p.2-3

Vocal: 33 あらわれでたのは、くろマントに、くろいぼうしのさんにくぐみ **freely**

Flx.

Sh. 35 それはそれは こわーい、どろぼうさまの おでかけだ

Sh.

p.4-5

Toy Horn

37 おどしの どうぐは みつ。 ひとつ、ラッパじゅう。

Sh. 40 ふたつ、こしょう・ふきつけ。

Sh.

B. Dr. 42 そして みつめは、 まっかな おおまざかり。

B. Dr.

p.6-7 《皇帝円舞曲》より

**Tempo di Martia**

Snare Drum

Cello

Piano

絵本の音楽会 『すてきな三にんぐみ』

9

Vocal: S.Dr. 9  
よるはなつたらやまをおり きて、えものはおらんかな...

Vc. 9  
*p*

Pno. 9  
*mp* *pp* *mp*

15

S.Dr. 15

Vc. 15  
*arco*  
*mf* *tr* *tr*

Pno. 15  
*mf* *tr*

p.8-9 《トリッチ・トラッチ・ポルカ》

♩=138

Cello 2/4 *p*

Triangle 2/4 *p*

Sus. Cymbal 2/4

Piano 2/4 *f* *p*

曙地 希美・佐久間真理・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村 雅美

5

Vc. 

Trgl. 

Pno. 

11

Vc. 

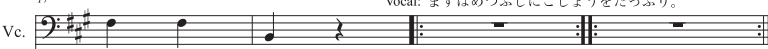
Trgl. 


Pno. 


p.10-11

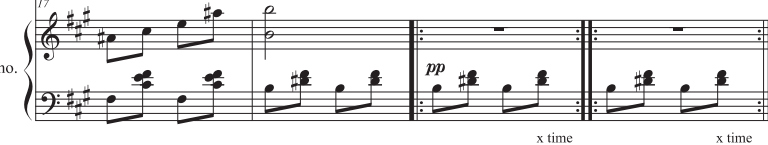
17

Vocal: まずはめつぶしにこしょうをたつぷり。

Vc. 

Trgl. 

Sh. 

Pno. 

x time

x time

x time

x time

x time

x time

pp



絵本の音楽会 『すてきな三にんぐみ』

21 Vocal: これでどのぼしやもびたり。

Vc.

S.Dr.

S.Cym.

Pno.

x time

f

fz

Vc.

S.Dr.

S.Cym.

Pno.

f

p.12-13

Vc.

S.Dr.

S.Cym.

Pno.

f

曙地 希美・佐久間真理・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村 雅美

(馬のいななきのように)

38 Vocal: おつぎはまさかりでくるまをまっぶたつ。

Vc. *mf*

S.Dr. x time *mf*

B. Dr. x time *f*

S.Cym. x time *f*

Pno. x time

43

Vc. *p* *cresc.* *f*

B. Dr. *f*

Pno. *p* *cresc.* *fz*

49

Vc.

Pno. *p* *f*

絵本の音楽会 『すてきな三にんぐみ』

p.14-15

Vocal: おしまいに  
ラッパじゆうをかまえて、  
さあ、てをあげろ  
.....

55

Vc.

S.Cym.

Pno.

60

Vc.

Spring Drum

Trgl.

S.Dr.

Toy Horn

S.Cym.

Pno.

mp

66

Vc.

S.Dr.

S.Cym.

Pno.

mp

The musical score is arranged in systems. The first system (measures 55-59) includes parts for Violoncello (Vc.), Snare Drum (S.Cym.), and Piano (Pno.). The second system (measures 60-65) introduces a Spring Drum (Trgl.), Toy Horn (S.Dr.), and Snare Drum (S.Cym.), along with the Piano (Pno.). The third system (measures 66-70) features the Violoncello (Vc.), Snare Drum (S.Dr.), Snare Drum (S.Cym.), and Piano (Pno.). The score includes dynamic markings such as *mp* and *>*. The vocal line is written in Japanese and includes a dotted line indicating a continuation of the melody.

曙地 希美・佐久間真理・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村 雅美

72

Vc.

S.Dr.

S.Cym.

Pno.

p.16-17 《エジプト行進曲》

$\text{♩} = 60$

S.Cymbal

Bass Drum

Piano

Vocal: かくれがは、やまのてつべんのほらあな。  
うぼっただからは、ぜんぶほこびこむ。

S.Cym.

B. Dr.

Pno.

絵本の音楽会 『すてきな三にんぐみ』

10

S.Cym. *mp*

B. Dr. *mp*

Pno. *mp*

p.18-19

Vocal: ためこんだ きん ぎん

Per.1 Finger Cymbal A Finger Cymbal B

Per.2

6

Per.1 ほうせき ゆびわに Triangle おかねに

Per.2 Wind Chim

11

Per.1 S.Cym ぐびかざり…。 ごらんのとおり、 ざっくざく。

Per.2 鈴

16

Per.1 Glocken ad lib S.Cym

Per.2 Wind Chim ad lib

曙地 希美・佐久間真理・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村 雅美

p.20-21 《アンネンポルカ》

vocal: さて、ある すみをながしたような よること。さんにんぐみは、いつものように  
ばしゃをとめた。ところが

♩=88  
Vocal: おきやくはたったのひ とり みなしごの ティファニーちゃん だけ。

Glockenspiel:

4 Glk. いじわるなおばさんの ところへ やられて、 いっしょにくらすはず だったので、

6 Glk. それよりは この おじさん たちの ほうが なんだから おもしろ そう

8 Glk. と、よろこんだ。

p.22-23

vocal: えものは なんにも なかったので、かわりに ティファニーちゃんを だいに  
かかえ、かくれがへ……。

11 Glk.

11 Pno. *mp*

15 Glk.

15 Pno.

絵本の音楽会 『すてきな三にんぐみ』

p.24-25

19  
vocal : ふかふかの ベッドで、ティファニーちゃんは ぐっすり。

Glk.  
Pno. *mp*

23  
Glk.  
Pno.

p.26-27

vocal : さて、あくる あさ。ティファニーちゃんは、めを さますなり、たからの やまに  
きがついた。「まああ、これ、どうするの？」

27  
W. Chim||

vocal : さんにんぐみは かおを みあわせ、ひたいを あつめて そうだんした。  
これまでは どうするつもりも なかったものだから。

p.28-29 《ラデツキー行進曲》

$d=94$   
Snare Dram *f*

5  
S.Dr.

曙地 希美・佐久間真理・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村 雅美

9

S.Dr. *f* *mf*

S.Cym. *f*

Vc. *f* *mf*

Pno. *f* *mf*

14

S.Dr.

Vc.

Pno. *mf*

19

S.Dr.

S.Cym.

Vc.

Pno. *f* *mf* *mf*

24

S.Dr.

S.Cym.

Vc.

Pno.



絵本の音楽会 『すてきな三にんぐみ』

29  
S.Dr.  $\text{ff}$

33  
S.Dr.  $\text{p}$  Vocal:そこで  $\text{p}$  さんにんぐみは あつめたあつめた。

37  
S.Dr.  $\text{p}$  さびしく、かなしく くらいきもちで  $\text{p}$

41  
S.Dr.  $\text{p}$  くらしている、すてごや  $\text{p}$  みなしごを どつざりと。

45  
S.Dr.  $\text{f}$   
S.Cym.  
Vc.  
Pno.  $\text{mf}$

51  
S.Dr.  
S.Cym.  $\text{mp}$   
Vc.  $\text{mp}$   
Pno.  $\text{mp}$

曙地 希美・佐久間真理・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村 雅美

p.30-31

57 *f*

S.Dr. *f*

S.Cym. *f*

Vc. *f*

Pno. *f*

62 *f*

S.Dr. *f*

Vocal: *p* そして さんになぐみは、すてきなおしを

68 *f*

S.Dr. *f*

かった。 みんなでいっしょにくらすんだ。 *f*

p.32-33

74 *p*

S.Dr. *p* おそろいの

80 *f*

S.Dr. *f*

あかいぼうしにあかマント。 さあ みんなのおしほへひっこした。 *f*

86 *mf*

Tamb. *mf*

S.Dr. *mf*

S.Cym. *mf*

Vc. *mf*

Pno. *mf*

絵本の音楽会 『すてきな三にんぐみ』

91

Tamb.

S.Dr.

S.Cym.

Vc.

Pno.

97

Tamb.

S.Dr.

S.Cym.

Vc.

Pno.

p.34-35

103

S.Dr.

*f*

108

Vocal: おしろのうわさは すぐ にくに じゆうに ひろまった。

S.Dr.

*p* *f*

113 おしろのこどもは ふえる ふ える...

S.Dr.

*f* *f*

118

Vc.

Largo

S.Dr.

*p* fade out

曙地 希美・佐久間真理・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村 雅美

123 Vocal: こどもたちは

130

Vc. Vocal: すくすくそだち つぎつぎに けっこん。おしろの まわりに いえをたて、むらをつくった。

p.36-37

vocal: ちいさな むらは どんどんおおきくなった。むらの ひとたちは だれも かれも、

138

あかい ぼうしに あかマント。そして みつつの たかい とうを たてた

vocal: ほら ごらん。まるで さんにんに そっくりだ

絵本の音楽会 『すてきな三にんぐみ』

p.37 フィナーレ 《美しく青きドナウ》

Tempo di Vaise

The musical score is arranged in three systems. The first system includes Snare Drum, Cello, and Piano. The Snare Drum part begins with a 3/4 time signature and a dynamic marking of *p*. The Cello part also starts with a 3/4 time signature and a dynamic marking of *p*. The Piano part is in 3/4 time with a dynamic marking of *mf*. The second system continues the Snare Drum, Cello, and Piano parts, with a repeat sign (*11*) above the Snare Drum staff. The third system continues the Snare Drum, Cello, and Piano parts, with a repeat sign (*19*) above the Snare Drum staff and a *To* symbol with a circled crosshair above the Cello and Piano staves. The Piano part includes a dynamic marking of *mf* in the lower register.

曙地 希美・佐久間真理・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村 雅美

27

S.Dr. *f*

Vc.

Pno. *f*

35

S.Dr. *f*

S.Cym. *meno mosso* *a tempo* *più mosso*

Vc.

Pno. *f* *ff*

44

S.Dr. *ff*

S.Cym. *ff*

Vc. *ff*

Pno. *ff*

(演奏時間：約 14 分間)

## 9. 考察

ここでは作品の制作過程を通し明らかとなった、子どもが絵本の物語を楽しむことを重視した作品づくりに必要な見識である、1) 絵本に対する深い理解、(2) 音楽の専門的な知識、(3) 子どもの発達への理解が必要であること、について述べる。

### 9.1. 絵本に対する深い理解

作品づくりの対象となる絵本に対する深い理解は作品づくりの上で欠かせないものである。絵本は言葉による説明が少なく、物語の背景や登場人物の心情が絵で表現されていることも多い。それらを読み取り、絵本には含まれていない情報を補足するための音や音楽を創作することが主な活動内容となる。しかし絵本には言葉による情報が限られているため、読み手により、受け取り方が異なり、違う解釈が生まれることもある。同じ場面でも解釈が違えば、そこに当てはめる音楽も違ってくる。

筆者ら「みらい堂」メンバー内においても、物語の受け止め方が違うことがある。例えば、『すてきな三にんぐみ』はハッピーエンディングであるが、孤児が国中から集められるシーンについては、新しい暮らしが始まる嬉しい場面としての解釈と、孤児がたくさんいることそれ自体が悲しい事であるとの解釈があった。

その他にも、村中 (2018) は論文の中で、『すてきな三にんぐみ』の主人公であるどろぼう三にんぐみを女性だと解釈する女子大生と小学生の女の子の解釈について記している。女子大生は、三にんぐみの一人が眠っているティファニーちゃんをそっと隠れ家へ運ぶシーンのイラストの姿が母親であると指摘している。また、小学生の女の子は主人公の三人が女性だから大きなマントや黒い帽子で体を隠して強盗しなくてはならないのだと

主張していた。中村が調査したところ、日本語訳ではティファニーちゃん  
が3人組のことを「おじさん」と呼んでいる場面だけジェンダーがはっき  
りと示されているが、原語のドイツ語や英語訳では「どろぼう」を示す語  
になっており性別は明らかにされていない。このように様々な解釈の幅を  
もたらず絵本を、音楽で表現するためには、場面ごとに洞察し、解釈し、  
理解する必要がある。朗読を担当する者だけではなく、器楽奏者もまた絵  
本をじっくりと読み込むこと、声に出してテキストを読み、イラストで表  
現されている情報をしっかりと読み取ることが不可欠である。

## 9.2. 音楽の専門的な知識

絵本に対する深い理解を持った上で、場面にあった楽曲を選ぶには音楽  
の専門的な知識が欠かせない。様々なジャンルに数え切れないほどの楽曲  
が存在する中から場面にあった音楽を選ぶには、音楽の広い知識が必要で  
ある。また、音楽づくりにおいて、楽器の特性や表現の幅についての知識  
も求められる。さらには、場面に合わせて楽曲をアレンジする、原曲を子  
どもたちの前で演奏可能な編成や長さにサイズダウンするなど、音楽を編  
曲する技術も求められる。

筆者らによる今回の作品づくりは、当初から幼児に3拍子のワルツを楽  
しんでもらいたいという願いのもと行い、そのため、ワルツだけでなくポ  
ルカやマーチなども数多く作曲しているヨハン・シュトラウス親子の楽曲  
を用いたが、彼ら親子の作品数だけでも膨大である。子どもにも親しみや  
すいメロディ、また子どもたちが今後どこかで再び耳にするような著名な  
曲を優先的に選んだが、今作においても使用する楽曲を決めるのに多くの  
時間を費やした。かつてNHKの「きらクラ！」というFMラジオ番組  
の「BGM 選手権」では、朗読された文学作品の一節にあうクラシック音  
楽をリスナーが応募し、毎回一つの作品に対して数曲が披露されていたが、  
どの選曲もそれぞれ違った雰囲気仕上がりに、投稿したりリスナーの様々な



文学作品の理解と、音楽によってもたらされる印象の違いを楽しめるものであった。筆者ら「みらい堂」の活動においても、メンバー間で場面の解釈や、選択する楽曲に関する意見を戦わせることが多く、一つの作品を作り上げる過程において選曲は最も重要な部分である。

また、今回はプロフェッショナルの打楽器奏者の参加により、奏者の楽器の演奏技術や音楽表現の幅の広さの大切さが作品づくりを通して明らかになった。「みらい堂」ではこれまでも乳児や幼児を対象とした作品づくりを行う上で、様々な打楽器を取り入れることを心がけてきた。しかし、打楽器演奏を専門とするメンバーが楽器から引き出す音の多様さと楽器への知識の広さと深さは、当たり前ではあるのだが、これまでの比にならなかった。以前制作した作品と同じく、幼稚園で普段から子ども達が親しんでいる楽器を多く用いたが、その楽器の音色の多彩さ、音量の幅広さにより、物語をより立体的に表現することができた。

さらには、それぞれの楽器や声の演奏家としての意見だけではなく、劇の音楽監督や音楽の演出を務めるメンバーの意見も非常に有効であった。演奏をする立場のメンバーだけでは、音楽の細部にこだわるのが多くなりがちである。しかし、演出を担うメンバーの意見があることで、作品全体の構成、観客への効果的な伝え方、場面を展開するテンポ感、音の重なりバランスなど演奏者では気づきにくい部分の調整をすることができた。

### 9.3. 子どもの発達への理解

子ども向けの鑑賞作品を制作するには、子どもの発達への理解が不可欠である。これは保育者や教職に就くものにとっては当たり前とされることだが、演奏会となると出演者の人数や専門性に演目が左右され、特に大きな会場で、しかも幅広い年齢の子ども達を対象としたコンサートとなると、子どもの発達までを考慮したプログラムを実現することは難しい。今回の作品づくりでは幼稚園での音楽会での演目とし、4歳児・5歳児を対象と

したため比較的制作がしやすかった。

子どもの音楽に対する特性の理解が制作過程においてもっとも大きく影響したのは選曲であった。今回の作品づくりの核となるワルツの楽曲を使用する場面をめぐり、当初は絵本の大部分を占めていた青と黒の暗い色調が変化し、緑の背景に赤衣装の笑顔の子ども達が登場する印象的なシーンで使用する案もあったが、最終的に《ラデツキー行進曲》を使用することとなった。これは、子ども達の新しい生活への期待感を表現するには行進曲の方がふさわしいという意見によるものである。

その他にも、場面に合わせて楽曲の長さを調節しながらも主題を繰り返すなどの工夫を随所に行った。また、作品全体としても子どもが集中できるような長さ、物語の展開を把握しやすい楽曲の構成、子どもが把握しやすい音の重なりとなるよう編曲した。ただし、子どもを対象とすることで「子供騙し」や「稚拙」な音楽表現にならないように、大人の鑑賞にも耐えうる作品になるよう心がけた。絵本を題材としたこの作品をきっかけにクラシック音楽への導入になるような、かつ、クラシック愛好家にも楽しめるような作品づくりを心がけた。

近年では、絵本は大人も楽しめるものであることが再確認されている(柳田、2001)。クラシック音楽も幅広い年齢の人が楽しめるものである。今回は4・5歳児を観客として想定した作品づくりを行なったが、より幅広い年齢の人が楽しめるような鑑賞作品に仕上げた。ただし、これを実証するにはこの作品を様々な観客を対象として複数回上演し、鑑賞中の観客の様子を分析した上で、作品を検討することが必要である。幼稚園での上演には、担任をはじめ、普段から子ども達と関わる保育者との連携が、音楽会の前後や演奏中のサポートにおいて不可欠である。

また、絵本を活用した音楽作品づくりの制作過程の考察を通し、この活動が保育者や教員養成課程の音楽表現指導法や音楽科教育法の授業で取り上げられる意義も明らかとなった。これまで述べたように、この活動には

(1) 絵本に対する深い理解、(2) 音楽の専門的な知識、(3) 子どもの発達への理解が必要である。(2) 音楽の専門的な知識については、この活動に取り組む人の専門分野により程度の差が生じてしまうことが予測される。しかし、この活動は、保育者や教員に必要な音楽に関する知識や、子どもを対象とした音楽会に必要な知識に対する理解が得られる活動である。今回の作品を一つのモデルとして学生に提示することも可能である。モデルの提示の有無により学生による作品作りにどのような影響があるか興味深い。

今回の作品の楽譜をもとにした、他のグループによる演奏も可能である。子どもを対象とした音楽会の上演を志す音楽科の学生や、保育者・教員を目指す学生による演奏への取り組みが期待できる。その場合、チェロを電子キーボードや他の楽器（例えば鍵盤ハーモニカ、テナーサクソ、トロンボーン、フレンチホルン等）に置き換えたり、打楽器をより大人数で分担して演奏したり等のアレンジも可能である。

## 10. おわりに

この研究では保育者養成課程の音楽表現や、教員養成課程の音楽科における活動でのモデルとなるような作品を目指し、4歳児・5歳児を対象とした絵本とワルツを含むクラシック音楽の鑑賞作品の制作を行った。作品づくりでは、絵本の読み聞かせにクラシック音楽を加えることで、より作品に奥行きを持たせ、臨場感を持って物語を伝えることを目指した。柳田は「読む声のトーン、あるいはその肉声、そういう物で子どもとのあいだにできる時間と空間がものすごく大事だ」（2001、p.86）と述べ、子どもに絵本を読むという経験を通して、「大人が自分のために読む作品としての絵本」という意識の大切さを指摘している。絵本を読む大人が、作品を深く理解し、感動し、それを伝える必要性について述べている。これは、

今回の作品づくりにも当てはまり、子どもに物語を、絵本の世界を的確に伝えるために、音楽家達がしっかりと絵本を理解し、感動を持って音楽を通して伝える重要性に改めて気付かされた。それと同時に、保育者養成課程、教員養成課程の音楽表現や音楽科研究の授業で行われている絵本を用いた音楽づくりの課題が有意義であることの証明となると筆者らは考えた。

2020年からの新型コロナウイルス感染症拡大を受け、多くのコンサートが中止となり、子ども達が音楽の生演奏を聴く機会が激減した。この作品が多くの音楽団体により上演され、また、この研究から明らかになった子どもが絵本の物語を楽しむことを重視した作品づくりに必要な見識が音楽家や保育者に共有され、再び子ども達が絵本と音楽の世界を楽しむことができるようになることを望む。

#### 注

- 1 日本の子どもの向け歌曲集の87%が2分割系(2/2拍子、2/4拍子、4/4拍子)、3分割系(3/4拍子、6/8拍子)はわずか13%であった。これに対し、英語の曲集では2分割系56%、3分割系44%であった。日本の曲集4冊、英語の曲集6冊のうちそれぞれ3冊以上に収録された曲(日本は75曲、英語は67曲)を比較分析した結果から明らかになった。
- 2 偕成社の絵本『すてきな三にんぐみ』の作者名の日本語表記はトミー＝アンゲラーとされているが、その他の出版社の絵本や、新聞記事などの表記はトミー＝ウンゲラーとされていることが多い。この論文では絵本の情報についての表記はアンゲラー、その他の部分はウンゲラーを使用する。

#### 使用絵本

トミー＝アンゲラー作、いまえよしとも訳。(1969年出版、1999年改訂版)。すてきな三にんぐみ。偕成社。

#### 使用楽譜

ヨハン・シュトラウス2世。《美しく青きドナウ》Op.314。第1～30小節。  
ピアノスコア。

<https://imslp.simssa.ca/files/imglnks/usimg/a/a8/IMSLP77157-PMLP06843->

絵本の音楽会 『すてきな三にんぐみ』

Strauss-Jr--Blue-Danube-Op314--tr-Piano--Ed-Peters.pdf.

ヨハン・シュトラウス 2 世. 《皇帝円舞曲》 Op.437. 第 1 ~ 18 小節.

ピアノスコア Karl Paulsson 編.

[https://ks.imslp.net/files/imglnks/usimg/4/4e/IMSLP107043-PMLP39963-Kaiserwalzer\\_Klavierauszug.pdf](https://ks.imslp.net/files/imglnks/usimg/4/4e/IMSLP107043-PMLP39963-Kaiserwalzer_Klavierauszug.pdf).

ヨハン・シュトラウス 2 世. 《トリッチ・トラッチ・ポルカ》 Op.214.

ピアノスコア first edition.

[https://ks.imslp.net/files/imglnks/usimg/5/5e/IMSLP253257-PMLP410330-Strauss,\\_Johann\\_Sohn-Op\\_214\\_Haslinger\\_12226.pdf](https://ks.imslp.net/files/imglnks/usimg/5/5e/IMSLP253257-PMLP410330-Strauss,_Johann_Sohn-Op_214_Haslinger_12226.pdf).

ヨハン・シュトラウス 2 世. 《エジプト行進曲》 Op.335. ピアノスコア 第 5 ~ 20 小節より抜粋.

[https://imslp.simssa.ca/files/imglnks/usimg/d/dd/IMSLP323183-PMLP523258-Strauss,\\_Johann\\_Sohn-Op\\_335\\_Spina\\_21900.pdf](https://imslp.simssa.ca/files/imglnks/usimg/d/dd/IMSLP323183-PMLP523258-Strauss,_Johann_Sohn-Op_335_Spina_21900.pdf)

ヨハン・シュトラウス 2 世. 《アンネン・ポルカ》 Op.117. 冒頭部分.

ピアノスコア.

[https://imslp.simssa.ca/files/imglnks/usimg/c/ce/IMSLP250802-PMLP406460-Strauss,\\_Johann\\_Sohn-Op\\_117\\_Haslinger\\_11529.pdf](https://imslp.simssa.ca/files/imglnks/usimg/c/ce/IMSLP250802-PMLP406460-Strauss,_Johann_Sohn-Op_117_Haslinger_11529.pdf).

ヨハン・シュトラウス 1 世. 《ラデツキー行進曲》 Op.228.

ピアノスコア.

[https://ks.imslp.info/files/imglnks/usimg/4/4a/IMSLP112812-PMLP68787-Strauss-Radetzky\\_March-piano-solo-by-RSB.pdf](https://ks.imslp.info/files/imglnks/usimg/4/4a/IMSLP112812-PMLP68787-Strauss-Radetzky_March-piano-solo-by-RSB.pdf).

参考文献

疇地希美、嶋田ひろみ、山本八千代、& 吉村雅美. (2018). クラシック音楽を用いた絵本の上演: 絵本の音楽会より 『スイミー』. 中部大学現代教育学部紀要= Journal of College of Contemporary Education, (10), 105-112.

疇地希美、嶋田ひろみ、山本八千代、& 吉村雅美. (2019). クラシック音楽を用いた絵本の上演 2: 絵本の音楽会より 『プレーメンの音楽隊』. 同朋福祉、(26)、227-260.

疇地希美、嶋田ひろみ、山本八千代、& 吉村雅美. (2021). クラシック音楽を用いた絵本の上演 (3) さつまのおいも: モデルタイプと制作方法論の検討 (馬越恵子特任講師退職記念). 同朋福祉、(28)、233-257.

今田由香. (2009). トミ - ・ウンゲラーが取り組む "両義性" という主題-- 『すてきな三にんぐみ』, 『ゼラルダと人喰い鬼』, 『あたらしいともだち』の分析研究. 絵本学、(11)、55-66.

- 海老澤敏、上参郷祐康、西岡信雄、山口修 監修。(2002). 新編 音楽中辞典. 音楽之友社.
- 音楽之友社編。(1982). 新音楽辞典 人名. 音楽之友社.
- 加藤麻里恵、& 久保義郎。(2019). 幼児の物語理解と創作に音楽が与える効果. 心理学研究: 健康心理学専攻・臨床心理学専攻、9、65-78.
- 小島千か。(2007). 絵本と音楽-子ども図書室での学生による発表を通して. 教育実践学研究: 山梨大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要、12、1-12.
- 小島千か。(2009). 絵本を用いた音楽づくりにおけるイメージのはたらき. 山梨大学教育人間科学部紀要、11、115-125.
- サントリー芸術財団。(2008). 日本の作曲家の作品 2007~2008.  
<https://www.suntory.co.jp/sfa/music/publication/pdf/list2007.pdf>.
- 下出美智子。(1995). 知的障害児の曲づくりにおける表現発展の道筋(第2報)「こころころ」の絵本から、音楽を作ろうという授業の分析を通して. 大阪教育大学紀要 (0xF9C5) 教科教育 05 教科教育、44 (1)、93-102.
- 下出美智子。(1996). 知的障害児の表現活動における言葉、動き、音の関連性:(第1報)「絵本から音楽を作ろう」という授業の分析を通して. 教育方法学研究、21、149-157.
- 神保けい(けいは王へんに景) 一郎。(1983). クラシック音楽鑑賞辞典. 講談社
- 鈴木静哉。(1998). クラシック名曲ベスト 345. ドレミ出版.
- 村中季衣。(2018). 絵本の読みあい: トミー= アンゲラー『すてきな三にんぐみ』の読みあいに学ぶ(特集 絵本の教科書: 作品で学ぶ絵本論). 絵本 bookend, 50-53.
- 平林直哉。(2009). CD ラデツキー行進曲~シュトラウス・ポルカ&マーチ集.ユニバーサルミュージック. UCCD-4092. 2009年4月22日. ライナーノーツ.
- 保柳健。(1996) CD 美しく青きドナウ Jシュトラウス作品集.ユニバーサルミュージック. POCG-5058. 1996年12月2日. ライナーノーツ.
- 柳田邦男。(2001). いのちと共鳴する絵本. 河合隼雄・松居直・柳田邦男編. 絵本の力.岩波書店. Pp85-116
- 松永洋介。(1992). 低学年における視覚的イメージを媒介とした創造的音楽学習--絵本や紙芝居を用いた音づくりの実践を通して. 大阪教育大学紀要 (0xF9C5) 教科教育 05 教科教育、41 (1)、p145-156.
- 三輪雅美。(2013). 音楽づくりを用いた保育演習の試み 2: 絵本「すてきな三にんぐみ」における実践 (2. 幼児教育者養成における教育実践、VI 教員養成と教師教育). 学校音楽教育研究、17、285-286.

絵本の音楽会 『すてきな三にんぐみ』

- 村田武雄. (2009) CD 「美しく青きドナウ～ウイナワルツ名曲集」コロムビアミュージックエンタテインメント. COCO-73012 3. 2009年12月23日 ライナーノーツ.
- Azechi, N. (2016). The influence of mother tongue on young children's rhythmic behaviour in singing (Doctoral dissertation, UCL (University College London)).
- Joseph, M. S. (1998). The illustrator as "agent provocateur". Bookbird, 36 (3), 11.
- クリエイターおすすめの絵本 650 冊: 絵本作家+イラストレーター+デザイナー 130 人. (2015). 日本: 玄光社.
- トミ・ウンゲラー: アルザスを胸に、世の不正を糾弾し続けた男. 雑誌 Pen [ペン] No.472. (2019). 特集: 泣ける絵本.2019年4月15日発行. CCC メディアハウス. pp.62-63.
- アクロス福岡 HP 歴史を彩った名曲たち#21 スエズ運河と帝国主義 ヨハン・シュトラウス 2 世 / エジプト行進曲. <https://www.across.or.jp/magazine/music21.html>. 2021年7月17閲覧.
- EhonNavi すてきな三にんぐみ. <https://www.ehonnavi.net/ehon/16/すてきな三にんぐみ/>. 2021年6月30日閲覧.
- Digitalians' Alchemy 2009年04月12日: ファミリーコンサート「すてきな三にんぐみ」 <http://d-alchemy.xyz/blog/article/174806310.htm>、2021/6/30 閲覧.

『同朋福祉』に関する内規』により「実践報告」として査読済み

疇地 希美 (本学専任講師 : 音楽 )

佐久間真理 (本学非常勤講師: 音楽 )

嶋田ひろみ (本学非常勤講師: 音楽 )

山本八千代 (本学非常勤講師: 音楽 )

吉村 雅美 (本学非常勤講師: 音楽 )